

# 全国中国語教育協議会

ニューズレター

第5号

1998年2月25日発行

## 98年度第1期セミナーの日程決まる

### 協議会発足後、初の理事会は3月に開催

前号のニューズレターで、全国中国語教育協議会の正式発足と、理事の選任をお伝えしました。本来、時を置かず理事会を招集し、活動方針と計画の策定に進むべきでしたが、事務局の力不足で予定が大幅に遅れ、3月下旬に開催の運びとなりました。初の理事会では、①協議会会則に沿って必要な内規を定めるなど、運営のルールを検討、②今後の活動方針と具体的事業計画の策定、とくに研修会・交流会・全国大会の開催と、会報・研究論集の発行に関する具体的な日程を検討、③協議会の財政的基盤の確立について意見交換、④協議会の将来像について、とくに世界漢語教学学会(p.2 参照)をはじめとする他の組織との関係および位置付けに関し意見交換、などが議題となるほか、事務局の確立についても方策が論じられることとなります。これまでは準備会としての活動に限定されてきましたが、この第1回理事会の開催で、全国中国語教育協議会の名にふさわしい各種の活動を実現する基礎固めができます。本年7月に予定される夏季セミナー以降の日程を含めて、第1回理事会の報告は4月末発行の次号ニューズレターに掲載の予定です。

97年度は4日間におよぶ夏季セミナー以後、協議会の趣旨に沿った行事を実現できませんでした。98年度は毎月なんらかの活動が行われるようにしたいと考えています。そのため、3月の理事会を待たず、本号ニューズレターで第1期分の日程を発表することにしました。昨夏のセミナーに対するアンケート調査にもとづき、その際に好評を博した孫玄齡先生の講座と、次回セミナーにリクエストの多かった日本人講師による教室文法の講座で、詳細はp.3に掲載されています。(興水優)

#### 新会員勧誘のお願い

本会は中国語教育に従事する個人を会員の資格とします。大学、高校、専門学校、講習会、私塾、個人教授を問いません。中国語教育に携わっている方(大学院生で中国語講師をしている方々を含む)で、入会ご希望の方には申込書、会則、会費振込用紙を郵送します。事務局あてにハガキでご請求ください。

#### 事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40  
日本大学文理学部中国文学研究室内  
全国中国語教育協議会  
郵便振替口座 00120-0-364168  
(会費・寄付金振込にご利用下さい)  
なお、お問い合わせ・ご連絡等は、  
お手数でも郵便でお願いいたします。

## 世界漢語教学学会



国内国外で中国語教育関係の学会は数多く、毎年開催されるシンポジウムも少なくない。今回の紙面から逐次それらの紹介を試みる。

1985年の夏に北京で第1回国際中国語教育シンポジウムが開かれたのは、台湾の世界華文教育協進会による国際シンポジウム

を追う形であったが、その成果を基盤にして97年の第2回シンポジウムの際に設立されたのがInternational Society for Chinese Language Teaching(世界漢語教学学会)である。

第1回のシンポジウムは政府の関係部門からバックアップされていたものの、北京語言学院(現北京語言文化大学)が事実上の主催者であり、大会運営に全力投球していたことから、各国の参加者から北京に中国語教育のセンターを設けること、語言学院がその役割を担うこと等の希望が出され、学会の発足から現在まで北京語言学院に事務局を置いている。

最も大きな事業は、3年ごとに開かれるシンポジウム(国際漢語教学討論会)で、96年に第5回が開催された。会期は毎回5日間で中1日の休養日(レクリエーション)があるものの、参加者は“同吃同住”の合宿形態で、中国各地から参加した著名な学者とも気楽に語り合えるが、かなりハードな日程である。全体会での報告と、6乃至7組の分科会での報告と討論が行われ、夜間も同好の士が集って様々な学術交流の場がもたれる。参加資格は国外からは無条件で、必ずしも論文を用意しなくてもよいが、国内は助教授以上といった条件があり、論文審査も行われている。しかし、特定の大学には条件がゆるい、という不満を耳にしたこともある。いずれにせよ報告のレベルが不揃い、中国人が“好客”のゆえか外国人の拙い報告にも甘い、といった学問的な水準の問題がある。また、国外の参加者に華僑が多く、必ずしもすべてが「外国人」ではないこと、海外華僑の子弟に対する中国語教育が“対外漢語教学”に混在していること、等々あれこれ意見も聞く。ドイツの代表は早くにヨーロッパから遠すぎる、学術性を高めるべきだ、と主張していたが、99年夏には初めて北京を離れ、ドイツのハノーバーで第6回シンポジウムが開催されることになった。

世界漢語教学学会には96年現在、38の国と地区から約800人が入会しているが、中国を除く(国内は中国対外漢語教学学会という母体があり、世界学会には入会資格を設けている)と、アメリカが最も多く(実は華僑が多数)、次いで日本が60人を越えている。シンポジウム開会時に国別会員集会で理事を選出、理事会で学会の執行部を選出している。現会長は語言学院前院長の呂必松教授、日本選出理事には長谷川良一、荒屋勤、輿水優、鳥井克之、陳文正、杉村博文の6名、さらに常務理事(定員15)として、輿水優が選出されている。入会申し込みは学会秘書處(中国 100083 北京市学院路15号)が受け付け、国外会員で会費納入者には機関誌《世界漢語教学》と《会員通訊》の送付をはじめ、年に2回ほど見計らいではあるが、新刊書の小包が郵送されてくる。会員にはシンポジウム参加費の優待もある。

## 98年度第1期セミナー(教員研修)のご案内

昨夏のセミナー参加者からいただいたご意見をもとに、今年度は土曜日の午後を利用した研修会が都心(国際文化フォーラムのご厚意で、JR新宿駅に至近の会議室を借用)で、また夏休みなどの研修会が大学で、それぞれ実施されることになりました。

今回は98年度第1期セミナーとして下記のAとBを実施いたします。あわせて末尾に参加申し込みのご案内を記しますので、ふるって申し込みください。

### A 音声教育講座 「中国語の話し方——発音のポイントを探る」(仮題) 全1回

講師 東京外国語大学客員教授 孫 玄 齡 先生

日時 4月4日(土)午後1時半～4時半

会場 (財)国際文化フォーラム会議室(新宿第一生命ビル26F)

昨夏のセミナーで好評を得た講義をアンコールに応じて開講するものです。会話や朗読における語調の大切さについて、実例を収録したテープの解説とともに、中国語の発音にとって大切なポイントを指摘します。昨夏のお話にも新しい内容も加わります。音楽家(岩波新書《中国の音楽世界》著者)でもある孫先生の独壇場です。聴講後、中国語の発音が上手になった感じがします。

### B 文法教育講座 「初級中国語文法の教え方——なにをどう教えるか」全4回

講師 日本大学文理学部教授 輿水 優 先生

日時 第1回 4月11日(土)午後1時半～4時半

第2回 5月 9日(土)午後1時半～4時半

第3回 6月 6日(土)午後1時半～4時半

第4回 7月11日(土)午後1時半～4時半

会場 (財)国際文化フォーラム会議室(新宿第一生命ビル26F)

昨夏のセミナーでは陸俊明教授が文法に関する講義をされましたが、参加者から日本人による文法の講義も、というリクエストがありました。今後この分野では同様のテーマで、複数の専門家にそれぞれ講義をしていただく計画ですが、その第一陣として初級の教室では文法をどう扱えばよいのか、初級から中級へどのようなステップをふむのか、実際的なお話を予定しています。全4回ですが、参加者の便宜をはかり前半2回(「なにを教えるか」と、後半2回(「どう教えるか」)に分けても申し込みが出来るようにいたします。

申し込み方法 葉書にA・B・B(前半)・B(後半)・A+B等の種別と、氏名・連絡先(住所)・所属・中国語教育歴をお書きの上、事務局へお送りください。中国語教育に従事する方、しようとする方を対象としますが、経験の浅い方を優先します。定員各40。締め切りはA=3月25日、B=4月1日です。折り返し受講料の事前納入振込用紙と交通案内を郵送します。今回の受講料は、A=¥2,500、B=¥8,500、B(前半)=¥4,500、B(後半)=¥4,500、A+Bは合算です。

98年度セミナー予定についてご連絡とお願い

本号 p. 3に98年度第1期セミナーの日程を掲載しました。土曜日利用の研修会と、夏休みなど休暇中の研修会の2本立てで実施しますが、細目は3月末に開催予定の理事会で具体案を練った上、次号ニューズレターで年間計画をお知らせいたします。交流会をはじめ、研修会以外の催しも実現させます(中国人教員用の研修も考慮中)。しかし、一方で気になることは折角の企画にどれだけの方がご参加くださるか、という問題です。本会の会員は現在197名、講師をご依頼したい方がむしろ数多く、今後の研修会等への参加者は会員外の方々にも求めるべきです。語弊があるかも知れませんが、会員外や専門外の方々に積極的な参加を求めたく、特に p. 3の第1期分は時間的な関係で、会員各位に周囲への呼びかけをお願いしなければなりません。もう一つ、参加者数とも関連し、受講料の問題があります。昨夏は定員割れで赤字でした。今回は会場を提供していただいても、参加が定員の70%以下では赤字です。理事会で今後の受講料を検討しますが、会費からの補填は難しいので、ぜひとも会員各位からの研修会参加PRをお願いします

★★ 中国語教育・情報ファイル ★★

去る1月に実施の大学入試センター試験の、中国語を含む外国語科目関係のデータは以下の通りです。

	受験者数	平均点
英 語	544,987	127.74
ドイツ語	142	138.89
フランス語	162	134.02
中国語	242	139.73
	(外国語は200点満点)	

⇒⇒ 資料提供のお知らせ ⇐⇐

97年センター試験の中国語問題をご覧になりたい会員には実費でコピーを郵送いたします。本試験の問題は入手された方も多いため、下記①と②のいずれかをご指定の上、①は80円切手7枚、②は80円切手5枚を事務局にご郵送ください。3月末まで受け付けます(会員のみ)。順次お送りします。

- ①本試験+追試験(正解つき)
- ②追試験のみ(正解つき)

◆◆ 活動ニュース ◆◆ 別項でも記したように、協議会の事業(研修会等)の対象者に入会していただくことが会の当面する任務の一つである。大学の中国語教員で日本中国語学会の会員でない方は多数にのぼるが、これはご専門が語学あるいは文学でなければ当然のこと、しかし教室で中国語教育に従事されている方には、ぜひ協議会に入っていただきたいと思う。現会員の方々に勧誘をお願いする次第。事務局の現状は現在の会員数が限度だが、協議会の設立趣旨からすれば1,000人でもおかしくない。なにしろ新刊テキストの無料配布見本が1,000部とも2,000部ともいわれる現在、事務局にもっと悲鳴をあげさせてほしい。

◆◆ 活動ニュース ◆◆ 同学社発行《トンシュエ》誌第15号に、協議会のご紹介を寄稿するよう求められ、「中国語教育のインフラストラクチャー」を掲載していただいたところ、早速に協議会へのお問い合わせがあった。PRの場が得られて感謝している。(興水優)